

氏名	山 崎 史 行
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2261 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 3 年 3 月 28 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	妊娠ラットにおける食塩と過酸化脂質
論 文 審 査 委 員	教授 産賀敏彦 教授 太田善介 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

自然発症高血圧ラットに食塩を負荷すると、妊娠末期に低下すべき血圧が下降せず妊娠中毒症に似た状態が得られた。水道水と 1.5 % 食塩水を自由に摂取された両群における脂質代謝について比較検討した。母体血清脂質は食塩負荷により、特にトリグリセライドが有意の増加を示し、脂質代謝に対する食塩の影響を認めた。母体血清過酸化脂質は妊娠により増加し、食塩負荷により 2 倍以上の増加を示したが、胎仔血清過酸化脂質は僅かな増加にとどまった。胎盤組織において antioxidant 物質の活用により、母体から胎仔への過酸化脂質の移行を最少限に止めるシステムが存在するものと考えられる。しかし、食塩負荷により僅かではあるが胎仔血清中の過酸化脂質が増加したことは、1.5 % 食塩水投与群における胎仔重量が対照群より有意に低かったことと関連があると考えられる。妊娠により血清過酸化脂質は増加し、食塩負荷によりさらに増加するが、母体肝組織中の過酸化脂質濃度が対照群に比べ有意に高値を示したことから、妊娠中の antioxidant 物質が種々の反応を呈することから、これら過酸化脂質の生成、消去について肝が中心的役割を持っていることが判明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は自然発症高血圧ラットの妊娠時における血清過酸化脂質に対する食塩摂取の影響を研究したものであるが、母体および胎仔における過酸化脂質濃度の変動および妊娠中毒症との関連に関して重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。